

## 日本人英語学習者の場所、時を表す前置詞 at、in、on の習得

私は、この5月に台湾で開催された International Conference on English Teaching and Learning (英語教育国際学会)に参加しました。そして、日本人英語学習者が苦手とする「場所」と「時」を表す英語の前置詞 at、in、on の習得について発表し、前置詞に後置される目的語名詞句のプロトタイプ性が、日本人英語学習者の前置詞の選択にどのような影響を与えるのか議論を行いました。またその学会には、台湾のみならず、様々な国の英語教員や研究者の方々が参加されていたため、日本以外の国の英語教育の問題や英語の習得に関する研究にたくさん触れることができました。

私にとって、このような国際学会において英語で研究発表をするのは初めてのことであり、つたない英語でも聞いてくださっている方々に理解していただくために、指導教員や英語のネイティブ教員の指導を受け、発表スライドを分かりやすく工夫し、何度となく発表の練習を行い、当日の発表に臨みました。

研究内容としては、まず、前置詞の目的語名詞句のプロトタイプ性を決定するために、英語母語話者のコーパスを用いて産出データを分析しました。その分析結果を基に実験文を作成しました。実験文では、「場所」と「時」を表す前置詞の目的語名詞句がプロトタイプである実験文と非プロトタイプである実験文をそれぞれ用意し、日本人英語学習者 29 人を対象に調査を行いました。その結果、前置詞の目的語名詞句がプロトタイプであれば学習者は正しい前置詞を選択することができる一方で、非プロトタイプの場合は正しい前置詞を選択することができないということを明らかにしました。また、3つの前置詞の中で、in が at や on よりも有意に正答率が高いことが分かりました。この理由として、それぞれの前置詞が表すことができる範囲が関係しており、前置詞 in は at や on に比べ、「場所」や「時」の範囲をより幅広く表すことが影響していると議論しました。

発表後の質疑応答では、前置詞の目的語名詞句のプロトタイプを決定するために、本実験では英語母語話者のコーパスを用いたのですが、「日本人英語学習者のコーパスを用いた場合には、どのような結果になると予測できるか」ということを質問されました。私自身、日本人英語学習者のプロトタイプを決定するためには英語母語話者のコーパスだけでは不十分であり、日本人英語学習者のコーパスを分析する必要があると感じていました。そこで、「現在は日本の高等学校で用いられている英語の教科書を用いて、日本人英語学習者がインプットとして受ける前置詞や目的語名詞句の種類について調査している」と説明しました。

このような国際学会に参加する機会は、大学院生としては貴重な体験であり、発表を行うまでの準備や発表後のやり取りへの対応など、様々なことを学ぶことができました。このような経験を今後の研究に生かすだけでなく、この研究の成果を論文として発表したいと思います。

国際関係学研究科 比較文化専攻  
修士課程 2年  
岡村 明夢

